

KIITO:

GHQ 占領期の神戸を観る・聞く・語る 神戸スタディーズ#6 “KOBE” を語る GHQ と神戸のまち」展示

神戸市の都市戦略「デザイン都市・神戸」の拠点施設である「デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」では、創造性を育むさまざまな活動に取り組んでいます。
この取り組みの一環として、次のとおりイベントを行いますので、ぜひご参加ください。

**第二次世界大戦後、占領下の神戸のまちは、
どのような姿をしていたのか？
写真や映像、地図、人々の記憶から読み解きます。**

戦前から戦後、そして現在へと続く神戸の暮らしの中で、まだ知られていないことが多いGHQ (General Headquarters=連合軍占領軍) 占領期。神戸スタディーズ#6 “KOBE” を語る GHQ と神戸のまち (2018年1月開催) では、レクチャーと公開ヒアリングを行い、この時期の神戸の記録と記憶に触れました。開催時には、占領期の神戸を記録した写真や地図などのイメージも示され、当時のまちを知り、そこで暮らした想像をめぐらせる大きな手がかりになりました。

本展では、同企画で紹介しきれなかった写真、関連映像、地図などを中心に、新たに借り受けた史料もあわせて展示いたします。GHQ 占領期の神戸の暮らしについて、一層の理解を深める機会となれば幸いです。

開催概要

- | タイトル | 神戸スタディーズ#6 “KOBE” を語る GHQ と神戸のまち」展示
- | 会期 | 2018年11月20日 (火) ~ 2019年1月6日 (日) 9:00~21:00
- | 休館日 | 月休 (祝日は開館、翌火休館)、12月29日 (土) ~ 1月3日 (木)
- | 会場 | デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 2F ライブラリ
- | 入場 | 無料
- | 主催 | デザイン・クリエイティブセンター神戸
- | 企画監修 | 村上しほり
- | 協力 | 衣川太一、神戸市文書館、JSPS 科研費 若手研究 (B) 「占領期神戸における都市空間の変容過程に関する研究」 (16K21163, 代表者: 村上しほり)

※写真上より

神戸税関と旧神戸生糸検査所 (現KIITO。浜辺通6丁目、1945年)、米軍兵士撮影、衣川太一氏所蔵 / 現在の写真 (2018年、村上しほり撮影) /
1:10000 地図 神戸首部 (1952年測量、1956年地理調査所発行) / 神戸スタディーズ#6 公開ヒアリング開催風景 (2018年1月)



関連イベント

スライドトーク「収集家・研究者と見る占領期神戸の写真」

本展示の企画監修者である村上しほりさんと、本企画において多数の写真資料をご提供いただいた衣川太一さんが、占領期神戸の写真を一緒に見ながら、写された場所はどこなのか、何が読み取れるのか、あれこれ語り合います。

| 日時・会場 | 2018年12月1日(土) 14:00-16:00 会場内にて(予定)

| 出演 | 衣川太一(写真収集家)、村上しほり(都市史研究者)

| 参加 | 無料、定員30名(申込制、先着順)

| 申込 | KIITOウェブサイト(<http://kiito.jp>)よりお申込みください。

関連イベント出演者 プロフィール

村上 しほり (むらかみ・しほり)

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 研究員、(株)スペースビジョン研究所 研究員。

1987年生まれ、神戸育ち。2014年、神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間表現専攻博士後期課程修了。博士(学術)。2012-2014年、日本学術振興会特別研究員(DC2)、2014年より現職、2014-2016年、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 震災資料専門員、2017年より(株)スペースビジョン研究所 研究員。著書に『神戸 閩市からの復興-占領下にせめぎあう都市空間』(慶應義塾大学出版会、2018年)、『盛り場はヤミ市から生まれた・増補版』(共著、青弓社、2016年)ほか。



衣川 太一 (きぬがわ・たいち)

写真収集家。1970年生まれ、日本大学芸術学部映画学科卒業。フィルム修復会社勤務等を経て、現在は神戸映画資料館でフィルム調査に携わる。占領期に日本で撮影されたカラー写真の収集・調査を行っており、現在約1万2千枚を所有。

